

「GDP のサプライサイドとデマンドサイドについて」

$$H+C+G+(X-M)=Y$$

$$Y=C+I+G+(X-M)$$

Supply Side:

H=Household Revenue

C=Corporate Revenue

G=Government Revenue

X=Export

M=Import

Y=GDP

Demand Side:

C=Consumption Expenditure

I=Investment Expenditure

G=Government Expenditure

X=Export

M=Import

国内総生産(GDP)は、需要側と供給側で計測すると等式ではつなげない。これを GDP の受給ギャップ(Supply Demand Gap)という。これまでケインジアンは需要側を重要視してきたが、お金を使う方ばかり重要視し過ぎてきた感がある。ひいては、政府の歳入と歳出のギャップ(赤字財政)を正当化するのに使われすぎてきた。今一度、財政均衡主義に立ち戻って、政府は「市場の失敗」による公共財の提供のみに自身の役割を限定すべきである。外交、防衛、救急、消防、警察、安心、安全、清掃、徴税にくらいに絞らないと、政府はどうしても肥大化しすぎである。政府の大きさは税金の大きさに測れる。財務省主計局のおおなたに期待する(無理かもしれないが)。行政府が立法するのはおかしいし、立法官という存在がおかしいので、日本もそろそろ成文法主義から判例法主義に体質変換すべきだろう。

March 6, 2015

英文法令社 佐藤賢一